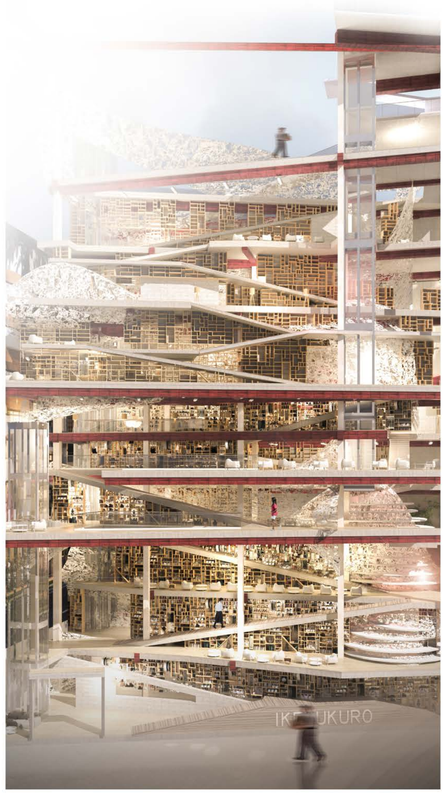
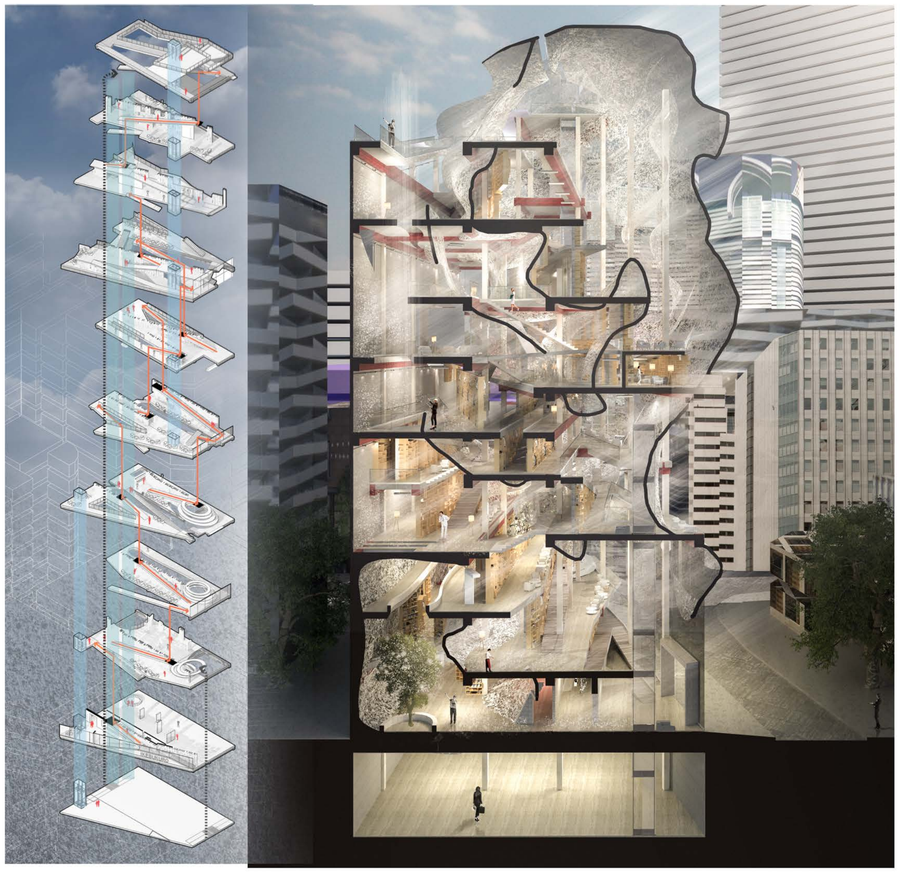
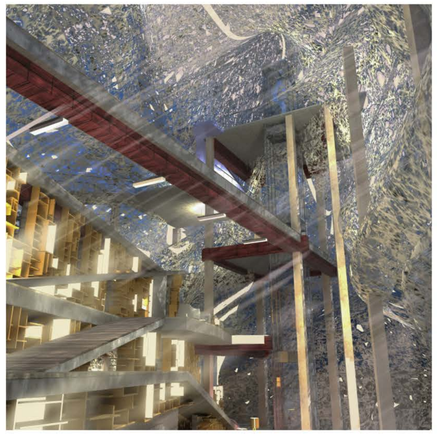
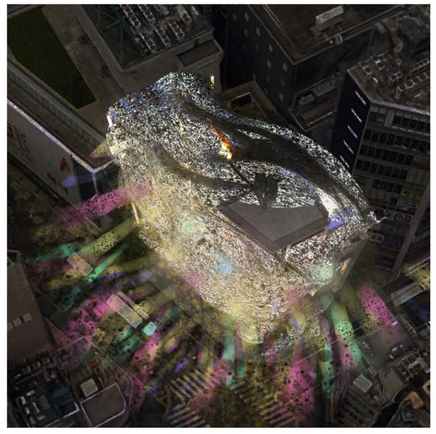
NOREN MEMORY

Commercial buildings design Based on the black market









デザインの背景

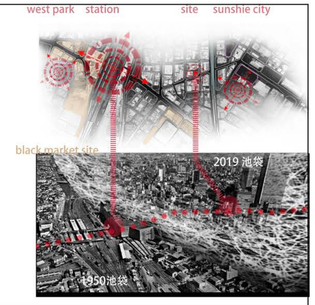
池袋の闇市

1950年から1980年に掛けて池袋では闇市が開かれていた。闇市は販売の促進、輸送ルートの確立、貨幣の流通をもたらすだけではなく、池袋の特殊な闇市の文化を築いた。近年、その闇市の文化は便利なビジネスに置き換わりつつある。今回の敷地は駅からサンシャインシティへの道中にある。それはこの道路が池袋の戦後の復興を担っていたことを表している。この活気のある道路で人々が文化や社会、あるいは彼ら自身のあり方を考え直す場が必要であると考える。

このようなデザインをすることによって、1950年代と現代のつながりを作れる。というのも、デザインの着想は池袋の闇市における人々の振る舞いや店の形態を調査し、店の配置、のれん、人々の通行の仕方から得たからだ。

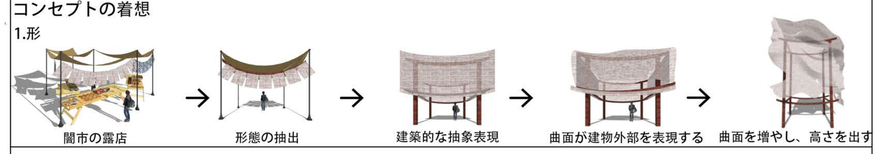
池袋西口公園からサンシャインシティまでの道路は池袋で最も活気があり、混雑した道である。サンシャインシティは1960年代において日本の最初の最も高い建築物であったため、西から東へのこの道は多くの人々にとって復興の道と見なされていた。

しかし時間の流れとともに、この道沿いは近代の商業形態となり、1950年代の戦後の雰囲気はほとんどなくなっている。このデザインを通して、商業施設に過去の池袋の要素を統合できた。そのため、最近の若者も池袋の歴史を想起することができるだろう。

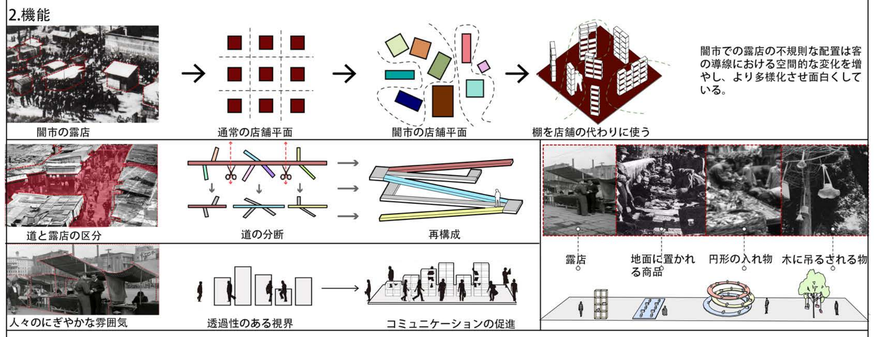


コンセプトの着想

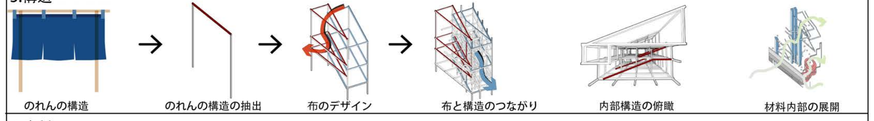
1.形



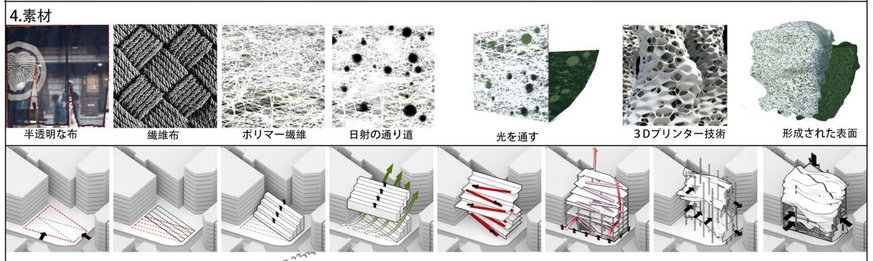
2.機能



3.構造

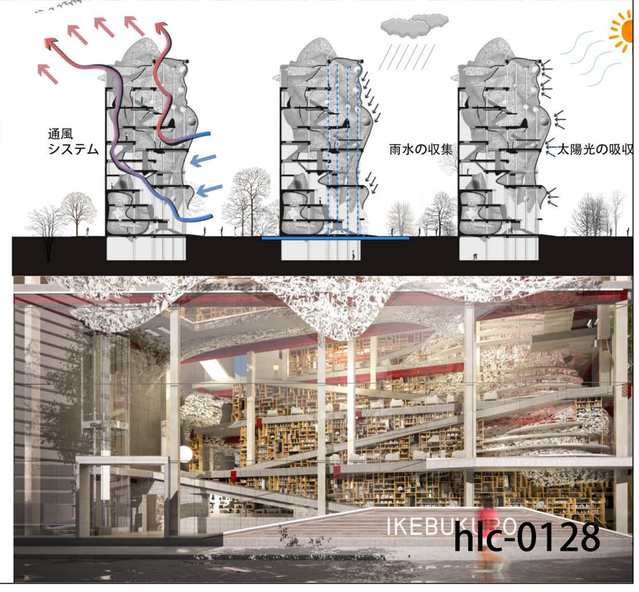


4.素材



都市と環境への配慮

ファイバー中に存在する無数の穴の入り口は人間の目線の高さによってデザインされている。それは退屈な周りを囲んでいるビルとその枠の風景をまた違ったものへと変える。



hlc-0128